

北見工業大学学報

第 238 号 (2010 年 3 月号)

目 次

学位記授与式	平成 21 年度学位記授与式を举行……………	2
告 辞	学位記授与式告辞……………	3
入 試	大学院工学研究科(第 2 次)入学試験の実施……………	6
	入学試験の実施……………	7
研 究 助 成	平成 21 年度共同研究の受入状況……………	8
	平成 21 年度奨学寄附金受入状況……………	8
国 際 交 流	2010 年留学生交流の夕べを開催……………	9
諸 報	北見工業大学「技術士養成支援講座の開講……………	10
	平成 21 年度第 3 回地域共同研究センター 産学官連携推進員・協力員合同 会議を本学で開催……………	11
	講堂改修工事の完了……………	12
	平成 21 年度永年勤務者表彰式(退職時表彰)を举行……………	13
日 誌	2 月・3 月……………	14

= 学位記授与式 =

平成 21 年度学位記授与式を挙行

(総務課)

平成 21 年度学位記授与式が、3 月 18 日 (木) 午前 10 時から北見市民会館大ホールで行われました。

学部 348 人の卒業生、大学院博士前期課程 117 人及び大学院博士後期課程 8 人の修了生に対し、鮎田学長から学位記が授与されました。

引き続き、学長告辞、小谷北見市長及び富田同窓会会長からの祝辞の後、電気電子工学科 山崎桂輔さんが、「大学で自分の居場所を見つけようとするうちに、多くの人達と出会い、その出会いが自分自身の糧となった。本学で過ごした歳月は、人生にとってかけがえの

ない青春の 1 ページとなった」と答辞を読み上げ、式は無事終了しました。

卒業生、修了生等の人数は、次のとおりです。



鮎田学長より学位記授与

学部

専攻名	卒業者数(人)
機械システム工学科	76
電気電子工学科	57
情報システム工学科	53
化学システム工学科	47
機能材料工学科	46
土木開発工学科	69
合計	348

大学院博士前期課程

専攻名	修了者数(人)
機械システム工学専攻	17
電気電子工学専攻	21
情報システム工学専攻	12
化学システム工学専攻	23
機能材料工学専攻	20
土木開発工学専攻	24
合計	117

大学院博士後期課程

専攻名	修了者数(人)
システム工学専攻	6
物質工学専攻	2
合計	8

= 告辞 =

学位記授与式告辞

学長 鮎田 耕一

学部卒業生、大学院修了生のみなさん。卒業、修了おめでとうございます。

北見らしいオホーツクブルーの晴天の下で学位記授与式を挙げてきましたことをうれしく思っています。

本日はご多忙ところ、北見市長の小谷様、同窓会長の富田様にご臨席賜っております。お二方には後ほど祝辞を頂戴致しますが、改めましてご列席ありがとうございます。

本年度は、学部卒業生 348 人、大学院博士前期課程修了生 117 人、博士後期課程修了生 8 人の皆さんに学位記を授与致しました。学位記は大学あるいは大学院で勉学に励んだ皆さんへのいわば表彰状であり、またこれから社会へ巣立つパスポートでもあります。

本日皆さんが卒業、修了できたのは、皆さん自身の努力の賜物ではありますが、それを支えてくださったご両親、ご家族への感謝を忘れないでください。ご両親、ご家族は、卒業生の皆さんと同じようにあるいはそれ以上にこの日を待ち望み、晴れやかなお気持ちで本日も列席されていることと思います。

お子様のご卒業、改めましておめでとうございます。

卒業生の皆さんは、さらに進学する人を除いて、社会人となりますが、これまでの学生とは異なった責任を持つこととなります。それをしっかりと自覚してもらいたいと思います。そして自らが社会人として 何をしたいのか夢を持ってください。その夢の実現に向けて目標を立て、それを達成するために努力をし、情熱を燃やしてください。



皆さんの母校 北見工業大学の前身は北見工業短期大学です。昭和 35 年 西暦 1960 年 4 月 1 日に設置されました。したがって、本学は 2 週間後に設立 50 周年という節目の日を迎えます。この記念の年に卒業される皆さんに、本日は、皆さんの母校が半世紀前にどのような経緯で誕生したのかをお話したいと思います。このオホーツクの地に大学を創設するという大きな夢を持ち、それを実現させた人々の話をしたいと思います。

皆さんは本学の正面玄関に向かって駐車場を挟んで 1 つの胸像が建っていること、そしてそれがだれかを知っているでしょうか。

我が国の工業大学は、北見、室蘭、東京、名古屋、九州と 5 つありますが、工業地帯から離れている地域にある工業大学は、北見だけです。

なぜ、本学はこの地に設立されたのでしょうか。そもそも、大学を創設することは、現在も当時もそう簡単なことではありません。まして、人口 6,7 万人の小都市であった北見に国立大学を創設することは、絵空事だったといえましょう。

このような環境の中で設立が実現した理由は二つあります。

一つは、時の利、すなわち時代が味方してくれたことです。

二つ目は、何が何でも高等教育機関が欲しいという地元の人々の熱意です。

一つ目の時の利とは、大学設立を検討し始めた昭和 30 年代の初頭は、第 2 次世界大戦が終わり 10 余年、我が国は戦争による被害から復興し、経済が成長に向かっていった時代があります。産業界では、技術革新が進み、これに備えて新しい技術者の養成が必要になった時期であります。本学の設立は、その時代の要請に一致したわけです。

二つ目の地元の人々の熱意、すなわち情熱と緻密な計画と大胆な実行力、これこそが本学誕生の原動力でした。大学を特に理工系の大学を設立するには膨大な資金が必要になります。北見工業短期大学設立に必要な費用は 3 億円近くでした。

当時の北見市長は、伊谷半次郎という方で、戦後第 1 回目の市長選挙で当選し、4 期 16 年間市長を務めました。3 期目に掲げたのが大学の誘致でした。高等教育機関がなかったこの地方に大学をというこの人の熱意が、大学の設置に大きく貢献したのですが、この巨額な資金をまかなうために、北見市費のほか、北海道や他の市町村、そして地元の人々からの寄附金を充てることにしたものの 1 億円足りませんでした。そこで、伊谷は当時北見バスを傘下に収めていた東京急行電鉄会長の五島慶太に 1 億円もの資金援助をお願いしたのです。五島は「強盗慶太」とあだ名をつけられたくらい競合企業を乗っ取る形で次々と買収した辣腕の実業家でありました。この五島が伊谷の熱意を受け入れ、なんと 1 億円を寄附してくれたのです。

冒頭お話ししました本学のキャンパスの胸像は、この五島慶太会長で伊谷市長が建立したものです。「強盗慶太」の異名をとった五島ですが、一方で運輸通信大臣を務めたほか、北海道の開発などでその壮大な事業を構想して、

企業家として後世に名を残しました。加えて、教師をしていた経験もあり、教育事業にも関心を持ち、東京都市大学の前身である武蔵工業大学を有する財団を設立した人でもあります。

伊谷は本学第 1 回の入学式祝辞の最後に「故五島慶太翁の御遺徳に対し、深甚なる敬意と感謝の誠を捧げる次第」と述べています。

その後、昭和 22 年ころからのベビーブームの影響で、昭和 41 年には大学入学者の急増が予測されたことなどを背景に、地元の人々に短期大学から 4 年制の大学への昇格を望む声が大きくなりました。

第 2 代目の市長滝野啓次郎は、道内には北海道大学と室蘭工業大学と北見工業大学の 3 つの工学部、工業大学が必要と訴え、当時昇格に消極的であった北海道知事を説得し昇格期成会の会長になってもらうなど 4 年制の大学への昇格に熱心に取り組み、後日当時の北海道拓殖銀行頭取は「滝野さんの誠実な努力と粘りは、道内経済人の間に感動を与えた」と語っています。このような人々の努力のおかげで北見工業大学は、短大創立からわずか 6 年後の昭和 41 年に 4 年制の大学に昇格したのです。

創立 50 周年を 2 週間後に控えた学位記授与式にあたり、本学の清水昭典名誉教授が編集委員長を務めてまとめられた本学の「25 年史」と同じ編集委員長である北見市の「北見現代史」などを基に本学の創設にあたり地元の人々が示した熱い情熱の一端について、お話をさせていただきました。伊谷半次郎、滝野啓次郎とも市長という立場ではありますが、このオホーツクの地に大学をという夢を実現するためにその情熱を傾けたわけでもあります。

本学は、昭和 59 年の大学院工学研究科修士課程の設置、平成 9 年の博士課程の設置と充実拡大し、今や 47 都道府県すべてから学

生が集まる大学に成長したわけですが、現実離れとされた大学の設置に成功した当時の関係の人たちのエネルギーは、すさまじいものがあったといえます。

皆さん方の多くにとって、今日は学生時代の最後の日を迎えたこととなりますが、一方で社会人へと今まで経験をしていない世界に一步を踏み出す旅たちの日でもあります。社会に出ると様々な局面に立たされることがあるでしょう。そのようなときに、たとえ周りが無理と言っても、それが皆さんの目指すものであれば、ひるむことなくそれを得るため、あるいは解決

するために、自分の母校を設立した人々の情熱を思い出し、全力を挙げてください。

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も」です。

先行きがやや不透明な時代ではありますが、皆さんには明日の社会を担う高い能力と若さがあります。

皆さんがこれからの人生を心身ともに健やかに過ごせるよう、そして北見工業大学を卒業したことを誇りに思える人生を送られるよう、心から願ってお祝いの挨拶と致します。

本日は誠にありがとうございます。



= 入試 =

大学院工学研究科（第2次）入学試験の実施

（入 試 課）

平成22年度大学院工学研究科博士前期課程（第2次）入学試験が、2月8日（月）（学力検査）と9日（火）（面接試験）に実施されました。

各専攻別の合格者数等は以下のとおりです。

また、平成22年度大学院工学研究科博士後期課程入学試験が、2月8日（月）（面接試験のみ）に実施されました。

各専攻別、各課程別の合計者数等は以下のとおりです。

博士前期課程

募集区分 専攻名	一般入試		学部3年次学生 対象入試		外国人留学生 特別入試	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
機械システム工学専攻	3	2	0	0	0	0
電気電子工学専攻	5	3	0	0	0	0
情報システム工学専攻	1	1	0	0	0	0
化学システム工学専攻	7	7	0	0	0	0
機能材料工学専攻	5	4	0	0	0	0
土木開発工学専攻	1	1	0	0	1	1
合 計	22	18	0	0	1	1

博士後期課程

募集区分 専攻名	一般入試		社会人入試		外国人留学生 入試	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
生産基盤工学専攻	0	0	2	2	2	2
寒冷地・環境・エネルギー 工学専攻	3	3	2	2	3	3
医療工学専攻	1	1	2	2	0	0
合 計	4	4	6	6	5	5

入学試験の実施

(入 試 課)

本学の平成22年度学生募集に対して、1月25日(月)から2月3日(水)までの受付期間に前期日程796人、後期日程1,640人の出願がありました。

前期日程は3月6日(土)に合格者を発表し、後期日程は3月20日(土)に合格者を発表しました。

今年度の入試実施結果は、以下のとおりです。

前期日程

系 名	募集人員	志願者数	合格者数
機 械 ・ 社 会 環 境 系	70	251	165
情 報 電 気 エ レ ク ト ロ ニ ク ス 系	63	224	122
ハ イ オ 環 境 ・ マ テ リ ア ル 系	46	321	85
合 計	179	796	372

後期日程

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
機 械 ・ 社 会 環 境 系	50	640	70
情 報 電 気 エ レ ク ト ロ ニ ク ス 系	42	525	45
ハ イ オ 環 境 ・ マ テ リ ア ル 系	36	475	65
合 計	128	1640	180

推薦入試

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
機 械 ・ 社 会 環 境 系	40	83	45
情 報 電 気 エ レ ク ト ロ ニ ク ス 系	35	67	38
ハ イ オ 環 境 ・ マ テ リ ア ル 系	28	37	29
合 計	103	187	112

= 研究助成 =

平成21年度共同研究の受入状況

平成22年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等
バイオ環境化学科	准教授	新井 博文	野菜の抗アレルギー成分の研究	(株)ビューティーラボジャパン
国際交流センター	教授	山岸 喬	野菜の保湿成分を使った化粧品の開発	(株)ビューティーラボジャパン
機械工学科	教授	柴野 純一	水素透過複相合金の内部ひずみ測定	(社)北見工業技術センター運営協会
国際交流センター	教授	山岸 喬	亜臨界水を用いた食品の加工	(社)北見工業技術センター運営協会

平成21年度累計82件

平成21年度奨学寄附金受入状況

平成22年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
					円
社会環境工学科	准教授	高橋 清	工学研究のため	日本工営(株)	315,000
バイオ環境化学科	教授	中谷 久之	バイオ環境化学に対する寄附	カルプ工業(株)複合材料研究所	500,000
知的財産本部	本部長	鞘師 守	知的財産本部活動の推進	(株)清月	32,550
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	河川・砂防系水理実験の共同研究 (テーマ:洪水流・泥流の河川構造物による制御法)	日本工営(株)	100,000
	学長	鮎田 耕一	学生に対する支援(奨学金支給)	北見工業大学後援会	900,000
社会環境工学科	助教	中村 大	工学研究のため	(株)ドーコン	315,000
国際交流センター	教授	山岸 喬	工学研究のため	小太郎漢方製薬(株)	400,000
	学長	鮎田 耕一	「北見工業大学創立50周年記念基金」への寄附のため	(株)天内工務店	500,000
	学長	鮎田 耕一	学生に対する支援及び大学広報等への支援	北見工業大学後援会	1,180,000
機器分析センター	講師	大津 直史	「レーザー照射を利用した鉄鋼材料表面マイクロ窒化技術の開発」の研究助成のため	(財)スズキ財団	1,000,000
社会環境工学科	教授	大島 俊之	工学研究のため	(株)ドーコン	1,000,000
社会環境工学科	准教授	高橋 清	工学研究のため	(株)ドーコン	1,000,000
社会環境工学科	教授	大島 俊之	工学研究のため	(株)ドーコン	500,000
社会環境工学科	教授	大島 俊之	工学研究のため	(株)ドーコン	1,000,000
社会環境工学科	教授	大島 俊之	道路の維持管理に関する研究	(財)北海道道路管理技術センター	800,000
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	工学研究のため	(株)ドーコン	500,000
社会環境工学科	教授	大島 俊之	網走地域における道路交通マネジメントに関する研究	(株)サンビーム	200,000
社会環境工学科	助教	中村 大	工学研究のため	太平洋総合コンサルタント(株)	250,000

平成21年度累計 83 件

= 国際交流 =

2010年留学生交流の夕べ

(研究協力課)

3月9日(火)に、本学コミュニケーションアトリウムにおいて、外国人留学生と北見市及び近郊の国際交流関係団体、ホストファミリー及び本学教職員など約100名が参加して「2010年留学生交流の夕べ」を開催しました。

鮎田学長の挨拶に続いて、今春卒業・修了する16名の留学生を代表して中国からの留学生 朱智莹さんから、日本での留學生活の思い出や将来の抱負などエピソードを交えたスピーチが行われた後、卒業生・修了生の紹

介に併せて留学生一人一人に学長から記念品が贈呈されました。

交流会には、留学生が日頃から大変お世話になっている支援団体やホストファミリーの方々が多数参加されており、様々な活動や思い出話に花が咲いていました。

また、アトラクションとして在学留学生による歌や山岸国際交流センター長と留学生によるウイグルダンスなどが披露され、盛況の中にも和やかな雰囲気うちに閉会しました。



← ウイグルダンス



短期留学生による日本の歌 →

北見工業大学「技術士養成支援講座」の開講

(研究協力課)

平成 22 年の「技術士養成支援講座」が札幌会場(札幌サテライト)と本学を会場とした北見会場の 2 会場で同時に開講しました。

本講座は、札幌及び北見在住の本学出身技術士 10 名の全面的な協力を得て、実践的な講義内容を親切・丁寧に指導し、「技術士」の資格取得を支援するものです。

開講期間は、1 月から 7 月までの計 10 回とし、開講時間についても、勤務を持っている受講者が参加しやすいように、札幌会場は平日の 18 時から 2 時間、北見会場は主に土曜日の午後の 2 時間で実施する旨募集したところ、両会場合わせて 40 名以上の応募が

ありました。特に 4 回目を迎えた札幌会場は募集後 3 日間で定員を上回ってしまう好評ぶりでした。

第 1 回目の 1 月 29 日は、両会場で受講者 30 名が出席し、TV 会議システムを利用し開講式を執り行いました。高橋理事から開講にあたっての挨拶並びに講座の趣旨説明の後、各講師からの自己紹介がありました。更に会場毎に受講者からの資格取得に向けた決意表明を含めた自己紹介の後、講師による「技術士試験のガイダンス」を行って閉講しました。



← 高橋理事からの挨拶

高橋理事を囲み講師及び受講者一同
(札幌会場)



平成 21 年度第 3 回地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員

合同会議を本学で開催

(研究協力課)

2月4日(木)に、今年度第3回目となる地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議を本学で開催しました。

本会議は、北海道、特にオホーツク地域の周辺自治体・公設試験場・包括連携協定締結機関等の関連部署担当者に「産学官連携推進員・協力員」を委嘱し、産学官連携に関する事項の協議・情報交換会を実施し、地域経済の振興を目的に活動を続けています。第3回目となる本会議には、自治体から6名、金融機関から6名、公的機関から8名、周辺大学から2名、本学関係者11名の総勢33名の出席がありました。

第1回及び第2回に引き続き、事前に実施したアンケート調査(アンテナショップへの参加)に基づき各自治体から発言頂き、さらに合同会議への要望や提案事項に関して協議しました。また、今回は大学生協にも参加して頂き、地元特産品を活用した食堂メニュー、特産品の設置販売も可能であることや生協利用についての説明がありました。会議終了後には、大学内の施設見学会を行いました。

今後は、地域振興策の一つとして、アンテナショップへの出展及びイベント開催等に向けて具体的に検討していくこととなっています。



← コミュニケーションアトリウムの紹介



ドライビングシュミレーターの体験 →

大学講堂改修工事の完了

(施設課)

3月19日(金)、大学講堂の改修工事が完了しました。

当該工事は本学の創立50周年記念を迎えるにあたり、客席床部分のフラット化と電動式移動客席の設置、照明設備の改修、エントランス及び多目的トイレの自動ドア化を行いました。これまでの客席は固定された椅子でしたが、今回の改修工事により、椅子を収納することで講堂としての機能に加えて多目的な使用が可

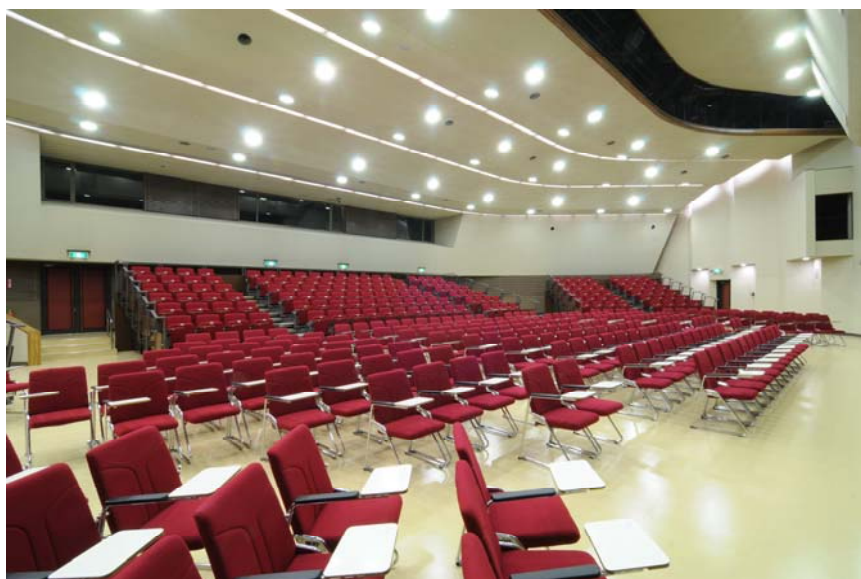
能となりました。

また照明設備に関しては、省エネかつ長寿命の無電極ランプの採用により保守性を高めるとともに、天井照明については従来の2倍以上の照度を確保し、講義室としても使用できる環境を作り出すことができました。

これらの整備が実施されたことにより、生まれ変わった大学講堂はこれまで以上に教育環境の充実・地域への貢献が期待されています。



← 椅子の収納時



椅子の展開時 →

平成 21 年度国立大学法人北見工業大学

永年勤務者表彰式（退職時表彰）を挙行

（企画広報課）

平成 21 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式(退職時表彰)が3月31日(水)午前9時40分から第2会議室において行われました。

本学永年勤務者表彰(退職時表彰)の被表

彰者に対し、学長から表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われました。

被表彰者は、下表のとおりです。(50音順)

氏名	所属学科等
小竹正敏	技術部
佐々木克孝	理事
鈴木一央	共通講座
林幸成	電気電子工学科
平野温美	共通講座
福井洋之	バイオ環境化学科
増田弦	マテリアル工学科
美村光俊	情報図書課
山田洋右	社会環境工学科



↑ 表彰状の授与



↑ 集合写真

= 日誌 =

(企画広報課)

2 月	3 月
3 日 地域連携推進委員会、学生委員会	1 日 役員会
4 日 地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議(本学)	3 日 後期日程試験監督員説明会
5 日 入学者選抜委員会	4 日 入学者選抜委員会、学生委員会
6 日 合同企業研究セミナー(～7日)	5 日 教授会、研究科委員会、発明審査委員会
8 日 大学院博士前期課程(第2次)入学試験(学力検査)、大学院博士後期課程入学試験(面接)	6 日 前期日程合格発表
9 日 大学院博士前期課程(第2次)入学試験(面接)	8 日 役員会、教務委員会
10 日 入学試験実施委員会、入学者選抜委員会	9 日 教授会、地域連携推進委員会
15 日 役員会	12 日 個別学力検査(後期日程)
16 日 入学者選抜委員会	15 日 役員会、入学者選抜委員会
17 日 教授会、研究科委員会、大学院博士課程合格発表、私費外国人留学生入試合格発表	16 日 学生表彰式
22 日 役員会	17 日 教務委員会、入学者選抜委員会
23 日 入学者選抜委員会	18 日 学位記授与式
24 日 教育研究評議会、国際交流委員会	19 日 教授会、入学者選抜委員会
25 日 教務委員会、ピア・サポーター研修(～26日)	20 日 後期日程合格発表
26 日 入学者選抜委員会	23 日 経営協議会、役員会
	31 日 永年勤務者表彰

